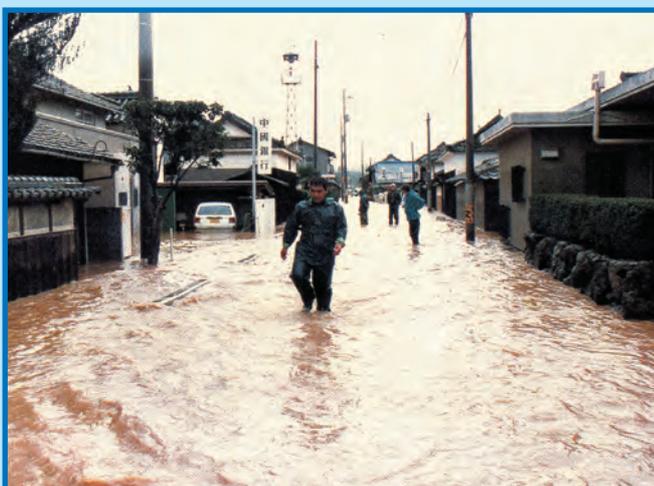


みんなで作る防災のまち

わが家の防災

もしものときに備えて!



地震

自助・共助・公助

風水害

応急手当

火災



赤磐市

はじめに

災害は毎年のように全国各地で発生しており、大きな被害を与えています。平成23年3月の東日本大震災では、死者15,880人*、行方不明者2,700人*という多くの犠牲者を出しており、未だ避難生活を余儀なくされている方々も多数に上ります。赤磐市内でも、過去に吉井川の氾濫で多くの死傷者を出し、家屋、農地などに大打撃を受けたことがあります、防災対策は重要な課題の1つとなっています。

(※数値は警察庁調べ(平成25年1月30日現在)による。)

いつ災害が発生するかは予測が困難です。市では、赤磐市地域防災計画に基づき、災害に強い安全なまちづくりを推進しています。そのためには、行政と住民、民間組織が一体となって自主防災と地域防災の充実に取り組むことが必要です。

市民の皆様が万一災害に直面したときの対応や、被害を最小限に抑えるための予防策を考える上で、この「わが家の防災」を参考にさせていただきたいと思っています。

平成25年3月

赤磐市長 井上 稔朗

目次

風水害編

1. 台風と集中豪雨 1
2. 土砂災害に気を付けよう 4

地震編

1. 家の中の安全対策 6
2. 家の外の安全対策 8
3. 地震発生!そのときどうする? 10
4. 緊急地震速報とは? 12
5. もしも被災してしまったら 13

火災編

1. 火災発生!そのときあなたは 14
2. 火元別初期消火のポイント 15

武力攻撃編

武力攻撃やテロなどから身を守るために 16

応急手当編

知っておきたい応急手当 17

防災マップ編

- 山陽地域(その1) 18
- (その2) 20
- 赤坂地域(その1) 22
- (その2) 24
- 熊山地域(その1) 26
- (その2) 28
- 吉井地域(その1) 30
- (その2) 32
- 山陽地域の避難所一覧 34
- 赤坂地域の避難所一覧 35
- 熊山地域の避難所一覧 36
- 吉井地域の避難所一覧 37

自助・共助・公助編

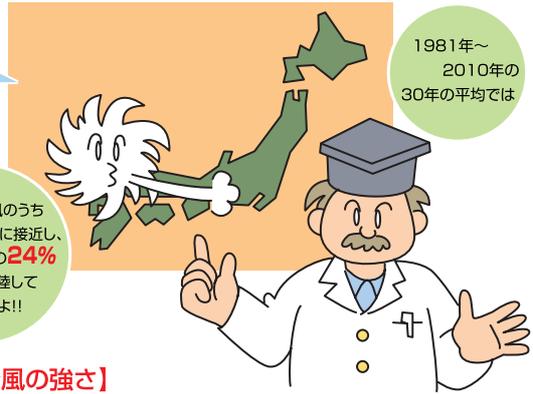
1. 自分たちの地域は自分たちで守る 38
2. 災害時要援護者にやさしいまちづくり 39
3. 非常時に役に立つもの 40

1 台風と集中豪雨

1. 台風の大きさと強さ

大型で強い台風とは？

台風の大きさは「風速15m/秒以上の半径」、強さは「最大風速」で表します。大きな台風ほど広い範囲に影響が及び、強い台風では強風によって中心付近が大きな影響を受けます。



【台風の大きさ】

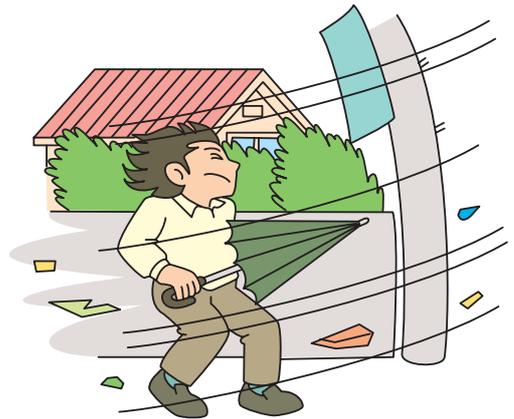
階級	風速15m/秒以上の半径
大型（大きい）	500km以上800km未満
超大型（非常に大きい）	800km以上

【台風の強さ】

階級	中心付近の最大風速
強い	秒速33m以上44m未満
非常に強い	秒速44m以上54m未満
猛烈な	秒速54m以上

2. 風の強さと吹き方

平均風速 (m/秒)	予報用語	人への影響	屋外・樹木の様子	建造物の被害
10~15	やや強い風	風に向かって歩きにくくなる。	樹木全体が揺れる。電線が鳴る。	取り付けの不完全な看板やタン板が飛び始める。
15~20	強い風	風に向かって歩けない。転倒する人もでる。	小枝が折れる。	ビニールハウスが壊れ始める。
20~25	非常に強い風	しっかりと身体を確保しないと転倒する。		鋼製シャッターが壊れ始める。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。
25~30	猛烈な風	立ってられない。屋外での行動は危険。	樹木が根こそぎ倒れ始める。	ブロック塀が壊れ、取り付けの不完全な屋外装材がはがれ、飛び始める。
30~				屋根が飛ばされる。木造住宅の全壊が始まる。



3. 雨の強さと降り方

1時間雨量 (ミリ)	予報用語	人の受けるイメージ	災害発生状況
10~20	やや強い雨	ザーザーと降る。	この程度の雨でも長く続くときは注意が必要。
20~30	強い雨	どしゃ降り。	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。
30~50	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。
50~80	非常に激しい雨	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く。)	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。
80~	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。	雨による大規模な災害の発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要。



(注)「風の強さと吹き方」「雨の強さと降り方」は、気象庁作成の解説表(平成19年一部改正)より抜粋。被害状況等は、地形等の違いによって異なることがあります。

4. 注意報と警報

注意報は、災害が起こるおそれのあることを注意する予報。警報は、重大な災害が起こるおそれのあることを警告する予報。

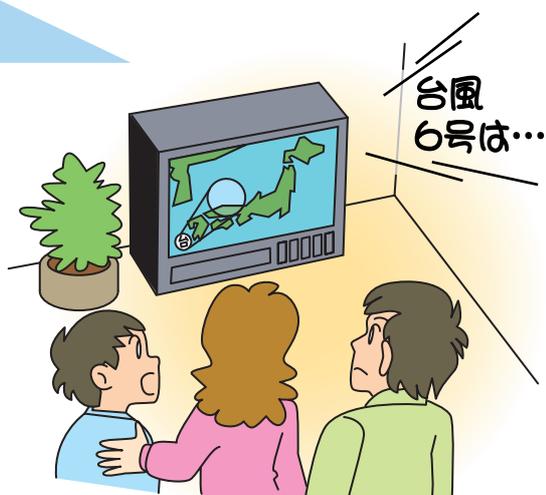
大雨や洪水などにはこれらの予報がありますが、基準は地域の実状によって決められており、全国同じというわけではありません。



5. ここがポイント事前の備え

家庭内では

- ◆ 気象情報や、防災関係機関等の広報をよく聞いておきます。
- ◆ 状況によって、遠出や外出は中止します。
- ◆ 避難場所について再確認します。
- ◆ 勤務先にいる家族などと連絡をとり非常時に備えます。
- ◆ 家財道具・食料品・布団・衣服などの生活に欠かせないものを安全な場所へ移動します。

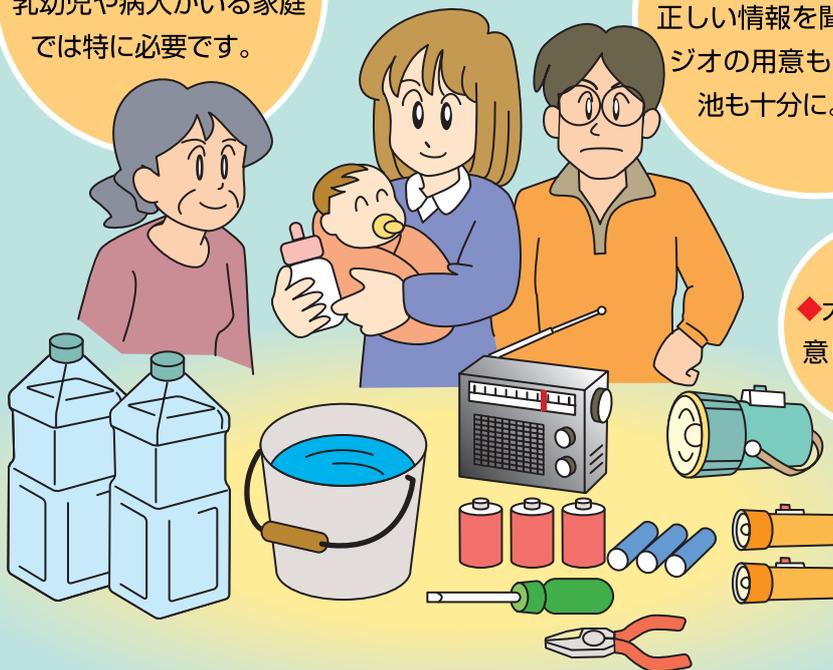


用意しておくのは

◆ 飲料水を用意して、断水や濁り水に備えます。乳幼児や病人がいる家庭では特に必要です。

◆ 懐中電灯を家族数に応じて準備します。また、正しい情報を聞くためにラジオの用意も。予備の電池も十分に。

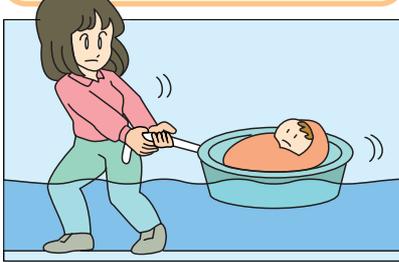
◆ 大工道具も用意しましょう。



6. 洪水の中を避難するとき

お互いの体をロープやヒモでしっかり結んで、体力のある大人が両端を守ります。

いつも通っている道でも、日常の感覚とはかなり違います。



先頭を歩く人は、竹か棒をつえにします。側溝の溝などの深みが分かりにくいので、つえを頼りに安全なところを選んで歩きましょう。

風雨がおさまっているときは、乳幼児をベビースに乗せて移動すると便利です。ただし、転覆しないよう十分注意してください。

子供が避難するとき、浮き輪を持たせると深みにはまらずにすむので便利です。



水の深さが50cm以上のときは、無理して避難するより、高いところで救助を待ったほうが安全です。また、長靴は中に水が入って歩きにくいので、運動靴で避難しましょう。

※子供やお年寄りからは目を離さず、手を引くなどの手助けを忘れずに。

7. 風水害のあとしまつ

台風や豪雨の後には、危険がいっぱいです。地域で協力し合って安全な復旧活動しましょう。

危険物が漏れていないか点検しましょう。



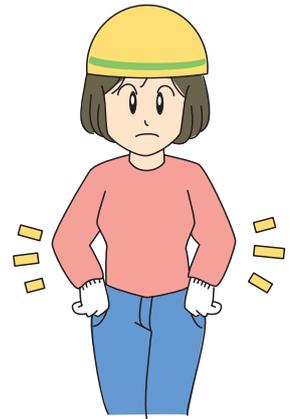
プロパンガスに異常はないか確認しましょう。



落下や倒壊の危険物があれば直ちに補強や除去を行いましょう。



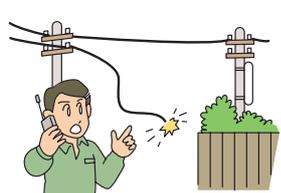
けがをしないよう、活動時には肌を露出しない服装にしましょう。ヘルメットも着用して落下物に備えましょう。



ごみや汚物の処理は早めに行いましょう。



断線を見つけたら電力会社へ通報しましょう。

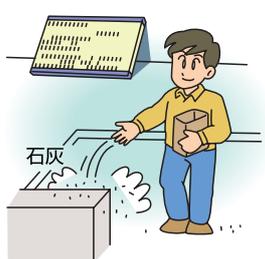


地域の清掃に協力しましょう。



■ 浸水のあとは…

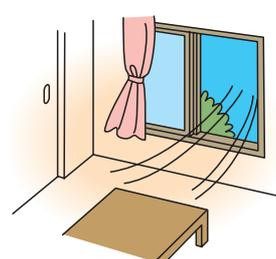
床下、庭、家周りに石灰をまきます。



家財道具や畳などは、日光消毒したり、クレゾール液でよくふいたりします。



家の中は風通しをよくして乾燥させます。



衛生に注意。水道水は煮沸し、石けんで手洗いをしましょう。



2 土砂災害に気を付けよう

危険箇所に指定された区域は、台風や集中豪雨・地震によって大きな被害を受けることが考えられます。地域で十分気を付けましょう。

また、土砂災害は、雨がやんでからも発生することがありますので、油断しないようにしましょう。



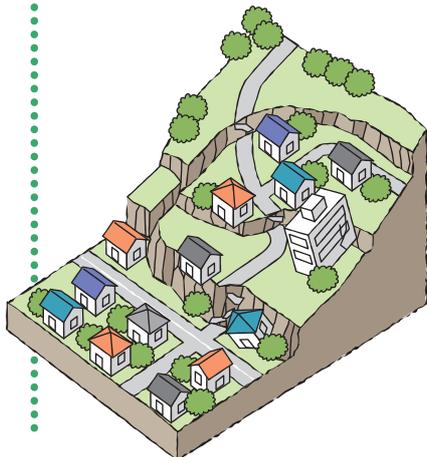
こんな土砂災害に注意しましょう

地すべり

粘土などの滑りやすい層を境に、その上の土がそっくり動き出す現象。

〔前ぶれ〕

- 地面にひび割れができる。
- 地面の一部が陥没する。
- 沢や井戸の水が濁る。
- がけや斜面から水が噴き出す。

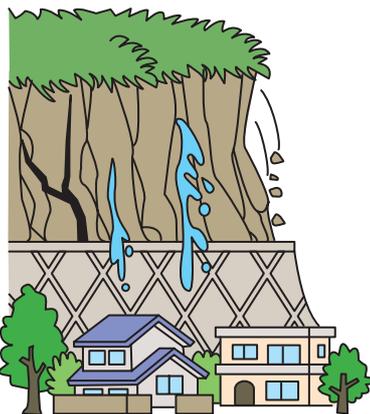


斜面崩壊

がけ崩れ、山崩れなどの現象。突発的かつ急速に起こることが多いのが特徴。

〔前ぶれ〕

- 小石がバラバラと落ちてくる。
- がけから水が湧いてくる。
- がけにひび割れができる。

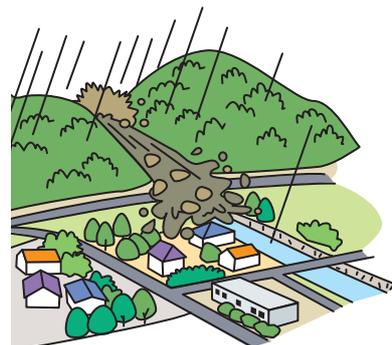


土石流

土石と水が一体となって流れ落ちる現象。昔から「山津波」とか「鉄砲水」といって恐れられています。

〔前ぶれ〕

- 山鳴りや木立の裂けるような音、ドンといった音がする。
- 雨が降り続けているのに、川の水が急に減り始める。
- 川の水が濁ったり、流木が流れてきたりする。



梅雨や台風の時期には十分警戒を

長雨や大雨により地面に大量の水がしみ込み、弱くなった斜面が崩れるため、がけ崩れのほとんどは、梅雨や台風の時期に発生します。

一般的に、1時間に20mm以上、又は降り始めから100mm以上の雨が続いたら、がけ崩れの危険性が高くなります。梅雨や台風の時期には十分な警戒が必要です。



注意したい場所は？

扇状地

山間部の集中豪雨による土石流に要注意。早めに避難の準備を。



造成地

地盤がゆるみ崩れる危険が。水抜き穴から濁り水が出始めたら要注意。



山岳地帯

集中豪雨や地震による山崩れに用心。特に、木の少ない山間部は、土石流に対する警戒が必要。



河川敷

昔、河川敷だったところや河川の流域は、洪水についての対策を万全に。



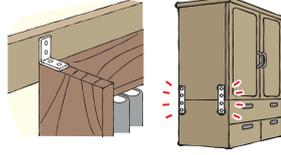
1 家の中の安全対策

家の中の地震対策は手軽にできる上に効果は抜群です。

まず第一に家具の転倒や落下を防ぐこと、そして逃げ場になる安全な空間をつくっておくことがポイントです。

家具とその上

- 金具の利用
背の高い家具は、L字型金具で固定。
2段・3段重ねの家具は、特に倒れやすいので、平型金具で連結します。
- 転倒防止器具の利用
天井との間につっぱり棒をつける。また、下に転倒防止板などを差し込んで、壁や柱に寄りかかるように固定します。
- 家具の上
家具の上にガラスケースなどの割れやすいものは置かないようにしましょう。



額縁

ガラス面に飛散防止フィルムをはって
おくと安心です。

照明器具

つり下げるタイプのものは、チェーンなどで天井に固定しましょう。

窓

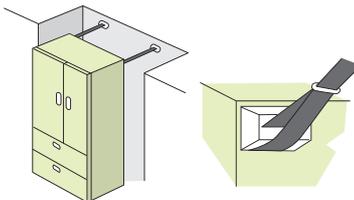
逃げ道を確保するとき、
すぐに開けられるように
しておきましょう。

バルコニーやペランダ

手すりの上に植木鉢を置
かないようにしましょう。

冷蔵庫

専用の転倒防止用ベ
ルトで固定します。買
ったお店やメーカー
に問い合わせてみま
しょう。

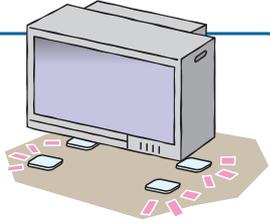


台所

火元の近くにフキンや油
など、燃えやすいものを置
かないようにしましょう。

テレビ

テレビは家具の上など、高い位置に置かないこと。また、市販の耐震粘着マットを利用します。



つり棚

重いものは下の棚に移し、落ちて大丈夫なものだけにしましょう。

ピアノ

専用の転倒防止金具や滑り止めを付けておきましょう。

寝室

子供やお年寄り、病人のいる寝室には、なるべく背の高い家具を置かないようにしましょう。

玄関周り

玄関や縁側など外への避難路になるところは、通路に家具や物を置かないようにしてスペースを確保しておきましょう。

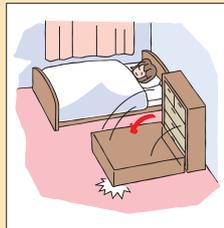


家の中に逃げ道となる安全なスペースがありますか。

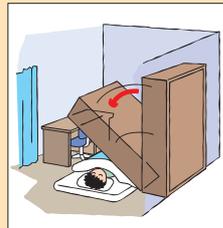
部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめ、広く安全な空間ができるように配置換えをしておくことと安心です。

就寝場所や避難路を考えていますか。

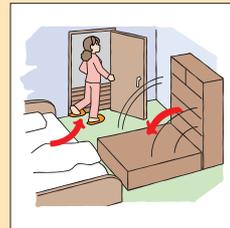
寝室や出入口付近で家具の固定ができない場合には…



就寝位置は転倒方向と重ならないように



家具の転倒範囲内に机などを置く



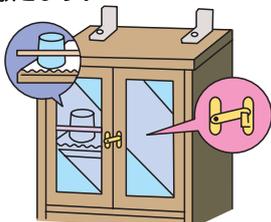
家具が倒れてもドアが開くように

お年寄りや子供が逃げ遅れないように考えていますか。

就寝中に地震に襲われると、子供やお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性があります。なるべく避難しやすい部屋に移り、背の高い家具などは置かないようにしましょう。

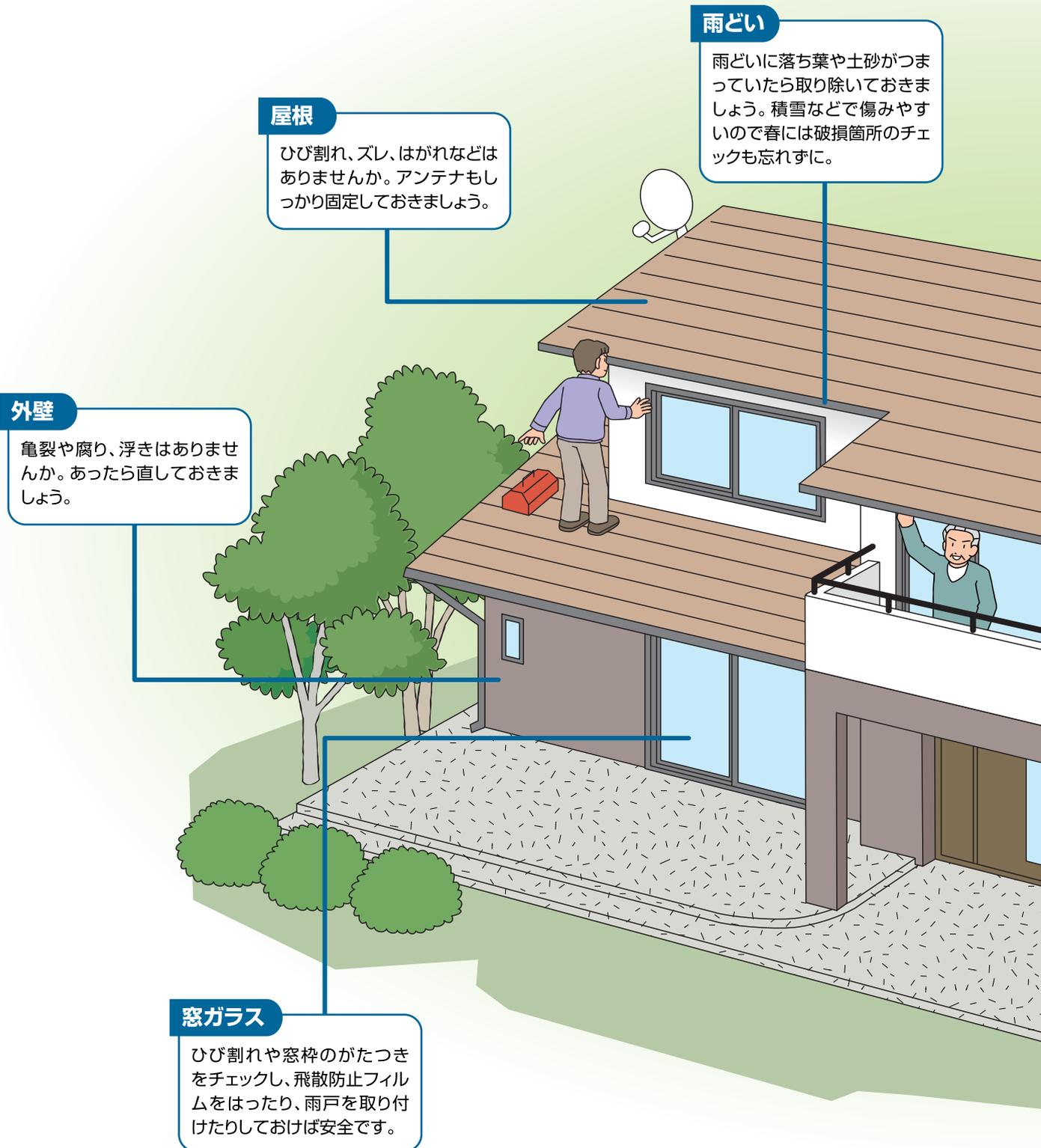
食器棚

ガラスが割れ、中のものが飛び出してきます。金具はL字型金具で壁に固定し、開き戸には止め金具を付けましょう。また、中の食器の滑り止めにタオルなどを敷きます。



2 家の外の安全対策

地震ばかりでなく、台風や集中豪雨に備えて、定期的に家の外周りをチェックしておきましょう。家の周りの環境や危険箇所などもいざという時のために調べておくことが大切です。



大地震に備えて木造住宅耐震診断を！ 耐震診断費用を補助します

自分のすまいを知る

自分のすまいの安全性を把握し、今後の判断基準とするため、まず、耐震診断を受けましょう。



赤磐市木造住宅耐震診断事業

昭和56年の建築基準法改正以前に建てられた住宅の耐震診断を行う方に対して補助を行っています。少しの自己負担で、専門家による耐震診断が受けられます。

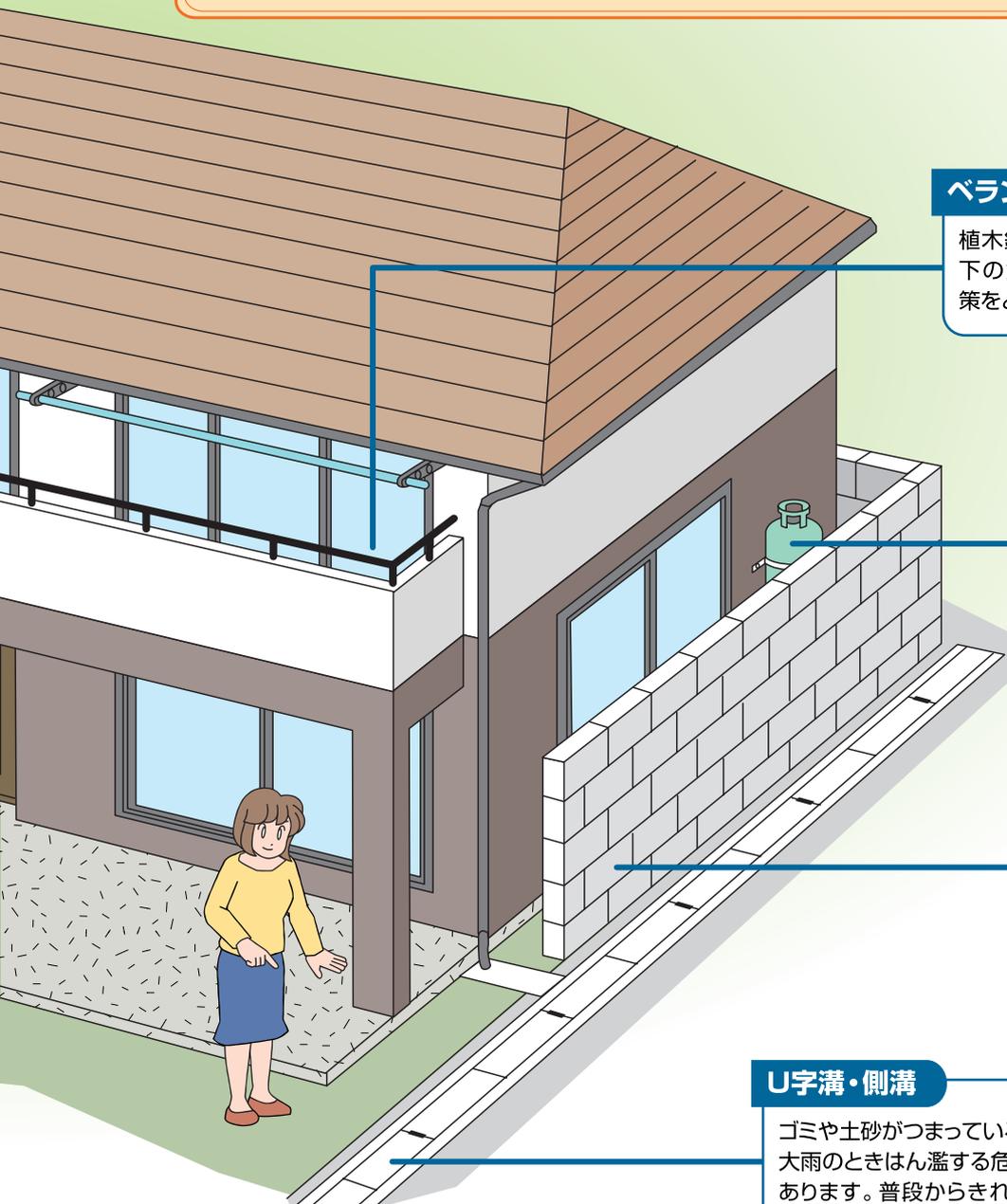
事業区分

- 木造住宅耐震診断事業
- 戸建て住宅耐震診断事業
- 建築物耐震診断事業

問い合わせ・申し込み先

本庁都市計画課

086-955-1485



ベランダ

植木鉢や物干しざおなど、落下の危険があるものは防止策をとみましょう。

プロパンガス

プロパンガスボンベは鎖や専用金具で固定しておきましょう。

塀

ブロック塀や門柱にきちんと鉄筋が入っていますか。また、基礎はしっかりしていますか。ひび割れや傾きがあったら補修しておきましょう。

U字溝・側溝

ゴミや土砂がつまっていると、大雨のときは氾濫する危険があります。普段からきれいに清掃しておきましょう。

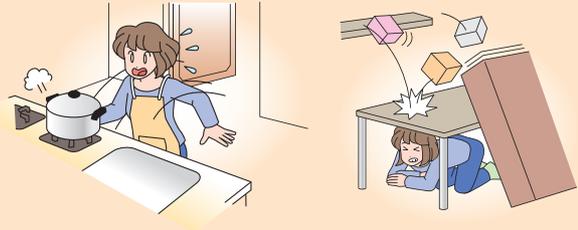
3 地震発生!そのときどうする?

自分や家族の安全を守るためには、地震が発生しても、慌てずに行動できるかがポイントになります。いざというときにパニックにならないように、地震発生から三日間くらいの標準的な行動パターンをしっかりと覚えておきましょう。

地震発生

最初の大きな揺れは約1分間

- 火の始末はすばやく
大きな揺れの前に、可能ならコンロの火を消し、ガスの元栓を閉める。
- ドアや窓をあけて、逃げ道を確認
- 落ち着いて、自分の身を守る
机の下などにもぐる。倒れてくる家具や、割れるおそれのある窓ガラスに注意する。



火元・家族の安全を確認

揺れがおさまったら…

- 火元の確認・初期消火
- 家族の安全を確認
- 靴をはく
ガラスの破片などから足を守る。
- 出火防止を
ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを切る。
- 非常持ち出し品の用意



ラジオ等で正しい情報をつかむ

- ラジオなどで情報を確認
震度速報は、地震後おおむね2分で発表される。
- 周囲の様子を確認
- 余震に注意
大きな地震の後には、余震が発生する可能性が大きい。
- 電話はなるべく使わない



約2分後 震度速報



災害の状況に応じて冷静に対応

- 隣近所の安全を確認
隣近所に声を掛け、互いの安否を確認する。特に、高齢者や障害者などの災害時要援護者のみの世帯には積極的に声を掛ける。
- 消火・救出活動
隣近所で協力して消火や救出を。自分たちの手に負えない場合は、消防署、警察署へ通報する。
- 子供を迎えに
保育園や小・中学校に子供を迎えに行く。自宅を離れるときは、行き先を書いたメモを目立つ場所に残す。
- 周囲に危険が迫っている場合は速やかに避難を
火災・土砂災害・建物倒壊など、災害の状況に応じて避難を。避難時は、ブロック塀や倒れかけた家屋などに注意する。市街地では、避難に車は使わない。

火事だ〜!



大丈夫ですか?



- 自宅や地域の安全が確認できるまで警戒を
ラジオやテレビなどで正確な情報入手。
- 生活必需品は備蓄でまかなう
災害発生から三日間くらいは家庭での備蓄でしのぐ。外部からの応援を期待しない。
- 壊れた家には入らない
- 避難生活では、集団生活のルールを守る



● 屋内にいるときは…

料理をしているとき

- グラツきたら、火の始末。「火を消せ!」と大声で叫ぶことも大事。
- ただし、身の安全確保が最優先。大地震を感知するとガスの供給を遮断する装置の整備も進んでいることから、決して無理はしないこと。
- 台所には食器棚や冷蔵庫など、危険がいっぱい。なるべく早く台所から離れる。



寝ているとき

- 布団やまくらで頭部を守る。
- 家具が倒れてこないところに身を伏せる。
- 暗やみでは、室内の様子を把握しにくくなるので、ふだんからまくら元には懐中電灯、携帯ラジオを。



お風呂やトイレに入っているとき

- お風呂場やトイレは、比較的安全な場所といわれている。慌てて外に飛び出さない。
- 入浴中だったら、湯船の中で様子を見る。タイル等の落下物に注意。
- トイレでは、ドアを開け、様子を見る。



● 屋外にいるときは…

歩いているとき

- 建物からの落下物に注意。バッグなどを持っていたら、それで頭部を保護する。
- 狭い路地やブロック塀、がけや川べりには近づかない。
- 橋や歩道橋の上にいるときは、手すりや柵にしっかりとつかまり、振り落とされないようにする。また、橋は倒壊のおそれがあるので、揺れがおさまったら即座にその場を離れること。
- 切れた電線には、決して触らないこと。



車を運転しているとき

- 徐々に速度を落とし、道路の左側に寄せてエンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで車外に出ず、ラジオで情報を聞く。
- 車外に出るときは、ロックせずにキーは付けたまま。
- 車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難を。



原則として、避難に車は使用しないでください。

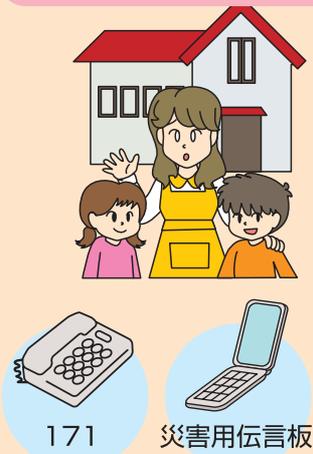
山間部の土砂災害危険区域からの避難や、お年寄りや重傷者など歩行困難な方を伴った避難等、どうしても車を使わなければならない場合以外は、

歩いて避難しましょう。

とっさの状況判断が、生死を左右します

● 職場などで地震にあったら、あわてて帰宅しようとするな

まずは、家族の安否確認を



171

災害用伝言板

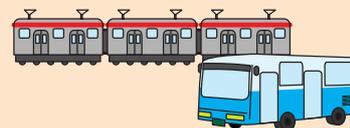


遠方の親せきを通じて連絡をとり合う etc...

情報を収集して、帰宅できるかどうかの判断を



交通機関は…?



移動時の水や食べもの、トイレは…?



被災地の混乱…

革靴やハイヒールで長時間歩ける？ etc...



- 帰宅できない場合は、職場にとどまるか、最寄りの避難所へ
- 徒歩での帰宅は、幹線道路を利用（主要なガソリンスタンドやコンビニ等では、帰宅困難者に対する支援（水道・トイレの利用等）を行っています。）

4 緊急地震速報とは？

緊急地震速報は、地震による強い揺れを事前に知らせる情報です。

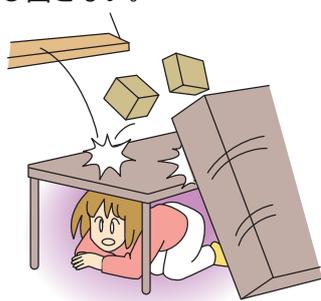
- テレビ・ラジオ、携帯電話及び防災無線などで伝えられます。
- 地震による強い揺れが始まる数秒～数十秒前に伝えられます（ただし、震源に近い地域では、緊急地震速報の伝達が間に合わないことがあります。）。

緊急地震速報を見聞きしたときは……

あわてずに、まず身の安全を確保することが大切です！

家庭では

頭部を保護し、丈夫な机の下などにもぐりこむ。あわてて外に飛び出さない。



自動車運転中は

あわててブレーキをかけない。ハザードランプを点灯し、ゆっくり停止。



エレベーターでは

最寄りの階で停止させ、すぐに降りる。



5 もしも被災してしまったら…

大地震により被災した場合、避難生活を余儀なくされることも考えられます。万が一、被災したときには、どのように生活環境が変わるのか…。東日本大震災等を教訓として、日頃からイメージしておきましょう。

住宅が被災したら…

災害により、避難が必要な状況となった場合は、市が開設した避難所に避難します。

→ p34~37参照



避難所は、市があらかじめ指定した施設のほか、状況に応じて民間施設等が避難所となることもあります。



日頃から最寄りの避難所、避難経路を確認しておきましょう。

避難所での生活は…

避難所での生活は、いろいろな人との共同生活になりますが、避難所を運営していくためには、そこで生活をする皆さんの協力が必要となります。



ルール、マナーを守り、助け合いの心を持って生活しましょう。
[写真提供：共同通信社]



避難所の運営に積極的に参加しましょう。



積極的に“睡眠”“休息”を!

避難所での生活が安定してくると、これまでの疲れがどっと出ます。長い避難生活を乗り切るため、決して無理はせず、気持ちと体力にゆとりを残しておくよう心がけましょう。

1 火災発生! そのときあなたは

早く知らせる



発見

- ① 「火事だー」と大声で叫ぶ!!
- ② 動転して声が出なかったら、やかんやなべなどをガンガンたたいて、近所の人たちの助けを求める。

通報



いざというときに備えて自宅の電話のそばに119番通報メモをはっておきましょう。

慌てずによく確かめてから通報してください。

119



通報するときは「あの、その、早く早く!」では困ります。正確に住所と名前を伝えましょう。



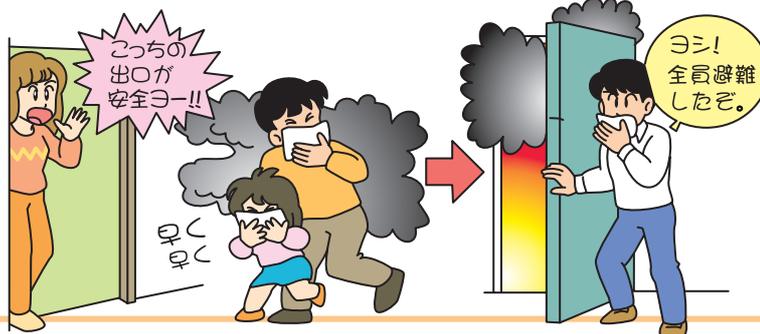
早く消す



火の小さいうちに、勇気をもって初期消火に当たる。

- ① 消火は出火から3分以内が勝負。炎を恐れず勇気を出して、落ち着いて初期消火をする。
- ② 初期消火とは、火が天井面に移る前に消火することです。
- ③ 消火に使うものは消火器や水だけではなく、身近なものを何でも活用して、素早い対応を。

早く逃げる



避難は早く安全に。

- ① 天井に火が燃え移ったら、素人の手には負えない。的確に判断して、早めに避難する。
- ② 避難するときは、できるだけ燃えているところの窓やドアを閉める。

2 火元別初期消火のポイント

電気製品から出火したら

感電の危険あり。必ずプラグを抜くか、ブレーカーを切ってから消火する。



油なべに火が入ったら

- ①ガスの元栓をしめる。
- ②消火器を使うときは、油が飛び散らないように、なべのふちや壁に消火液をぶつけて、反射させるようにしてかける。
- ③消火器がないときは、大きなフタを手前から滑らせるようにかぶせて空気を断つ方法や、ぬれシーツなどを一気にかぶせて油温を下げる方法をとる。



石油ストーブから出火したら

- ①ストーブを倒してしまったら、ぬれぞうきんなどを使って引き起こす。無理ならば、そのまま消火してもよい。
- ②消火は、ぬらした毛布などをかぶせてから水をかける。



カーテン、ふすま、障子などに火がついたら

- ①火が小さいうちは、水をたたきつけるようにかける。立ち上がっている火には、上のほうをめがけて、半円を描くように水をまく。
- ②水が間に合わなければ、カーテンは引きちぎり、障子やふすまは、け倒して足で踏んで消してもよい。



3 避難のポイント

- 1** 天井に火が燃え移ったら避難する。



- 2** 避難のときは、お年寄り、子供、病人を優先する。



- 3** 服装や持ち物にこだわらず、とにかく早く避難する。



- 4** ちゅうちょせず、炎の中を一気に走り抜ける。



- 5** 煙の中を逃げるときは、ぬらしたタオルで口をおおい、姿勢をできるだけ低くする。



- 6** 一度逃げ出したら、絶対に中に戻らない。

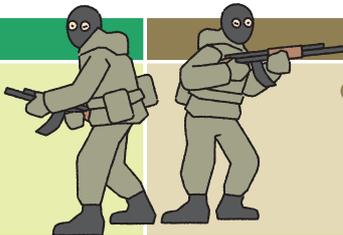
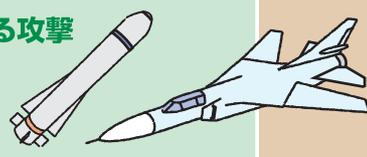
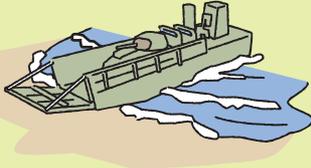
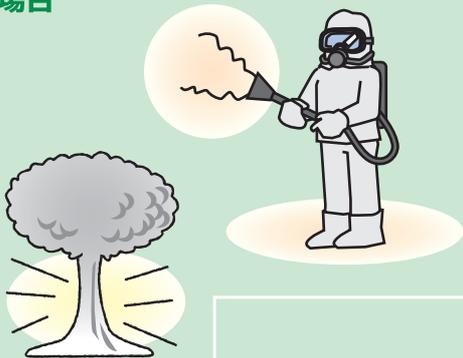


- 7** 逃げ遅れた人がいたら、近くの消防隊員にすぐに知らせる。



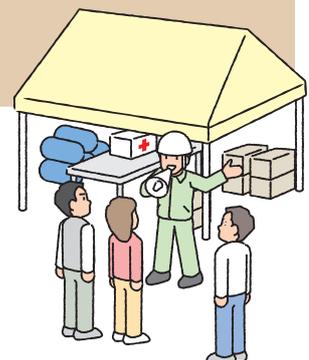
武力攻撃やテロなどから身を守るために

もしも他国からの武力攻撃やテロなどに遭遇したとき、どのように行動すればよいのでしょうか。

武力攻撃の種類	避難などの留意点
ゲリラや特殊部隊による攻撃 	<ul style="list-style-type: none"> ● 攻撃当初はいったん屋内に避難し、その後、行政機関の指示に従って避難する。
弾道ミサイルによる攻撃 航空攻撃 	<ul style="list-style-type: none"> ● 攻撃当初は屋内へ避難し、その後、行政機関の指示に従うこと。屋内避難に当たっては、近隣の丈夫な建物や地下街などへ避難する。
着上陸侵攻 	<ul style="list-style-type: none"> ● 攻撃が予測された時点において、事前の避難も想定される。 ● 遠方の避難や、避難期間の長期化も想定される。避難経路や手段などについては、行政機関の指示に従うこと。
化学剤、生物剤、核物質が用いられた場合 	<ul style="list-style-type: none"> ● 皮膚の露出をできるだけ少なくし、口と鼻をハンカチで覆いながら、その場から直ちに離れ、密閉性の高い屋内など、汚染のおそれのない安全な場所に避難する。 ● 屋内では、窓閉め、目張りにより室内を密閉し、できるだけ窓のない中央の部屋に移動する。 ● 屋外から屋内に戻ってきた場合は、衣類を脱いで、ビニール袋に密閉する。その後、水と石けんで手、顔、身体をよく洗う。 ● 安全が確認できるまでは、汚染された疑いのある水や食物の摂取は避ける。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 屋内避難の場合、2階建て以上の建物であれば、なるべく上の階へ避難する。 ● 汚染された衣服などを脱ぐときは、皮膚の露出部分に触れないよう、はさみで切り裂いて外す。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 感染した可能性のある人は、マスクを着用する。周囲の人は、頻繁に石けんで手洗いする。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 閃光や火球が発生した場合には、失明のおそれがあるため、見ないこと。 ● とっさに遮蔽物の陰に身を隠す。近隣に建物があれば、その中に避難する。地下施設やコンクリート建物であれば、より安全である。 ● 避難の際は、爆発地点の風下を避けて、できるだけ遠くへ避難する。

こうした場合の行動は、地震や風水害などの災害時における対応と共通することが多くあります。

また、非常持出品の備蓄や避難場所の確認、防災訓練への参加など、日ごろから災害に備えておくことは、武力攻撃等が発生した場合においても、大いに役に立つはずですよ。



知っておきたい応急手当

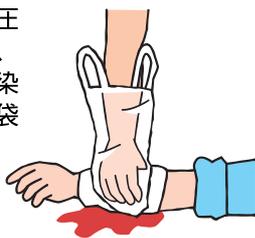
災害発生時の混乱状態では、救急車はすぐにはやってきません。専門的な治療はともかく、初期段階の応急手当は、負傷者のそばにいる人が行わなければならないのです。

あなたの大切な人の生命を救うことができるよう、応急手当の方法を身に付けておきましょう。

覚えておきたい応急手当のポイント

●出血がひどいときは

きれいなガーゼやハンカチなどを傷口に当て、手で圧迫するなど応急手当をし、急いで医療機関へ。(感染症予防のため、ビニール袋に手を入れて押さえるなど、血液に直接触れないように注意する。)



●骨折の疑いがあったら

- 1 患部を動かさないようにして手当をする。
- 2 患部に副木（なければ板やダンボール、傘、雑誌などでもよい）を当てて固定し、早めに医療機関へ。



●やけどをしたら

- 1 急いで水道水などの流水で冷やす。
- 2 衣服の上からやけどをした場合は、無理に脱がさず、そのまま冷やす。水ぶくれはつぶさない。
- 3 冷やした後は清潔なガーゼなどで軽く包み、急いで医療機関へ。



意識のないときは119番!

- 1 肩をたたきながら耳元で「大丈夫ですか」「もしもし」などと呼び掛ける。
- 2 意識がなければ「だれか来て!」と助けを求め、119番通報を依頼。一人きりの場合は自ら通報を。

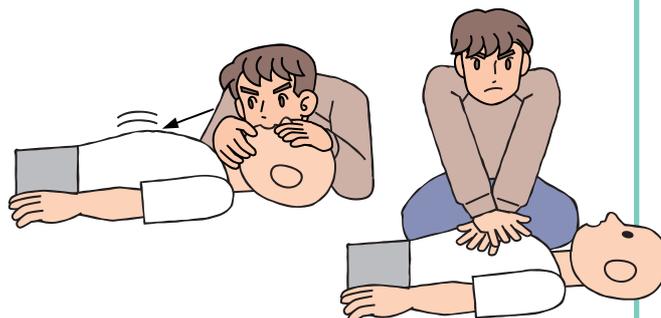


救命講習を受講しよう

救急車が119番通報を受けてから現場に到着するまで、全国平均で約6分かかります。この6分間、傷病者の生命を大きく左右するのです。

かけがえのない命を救うためにも、人工呼吸や胸骨圧迫及びAED（自動体外式除細動器）などの救命技術を身に付けましょう。

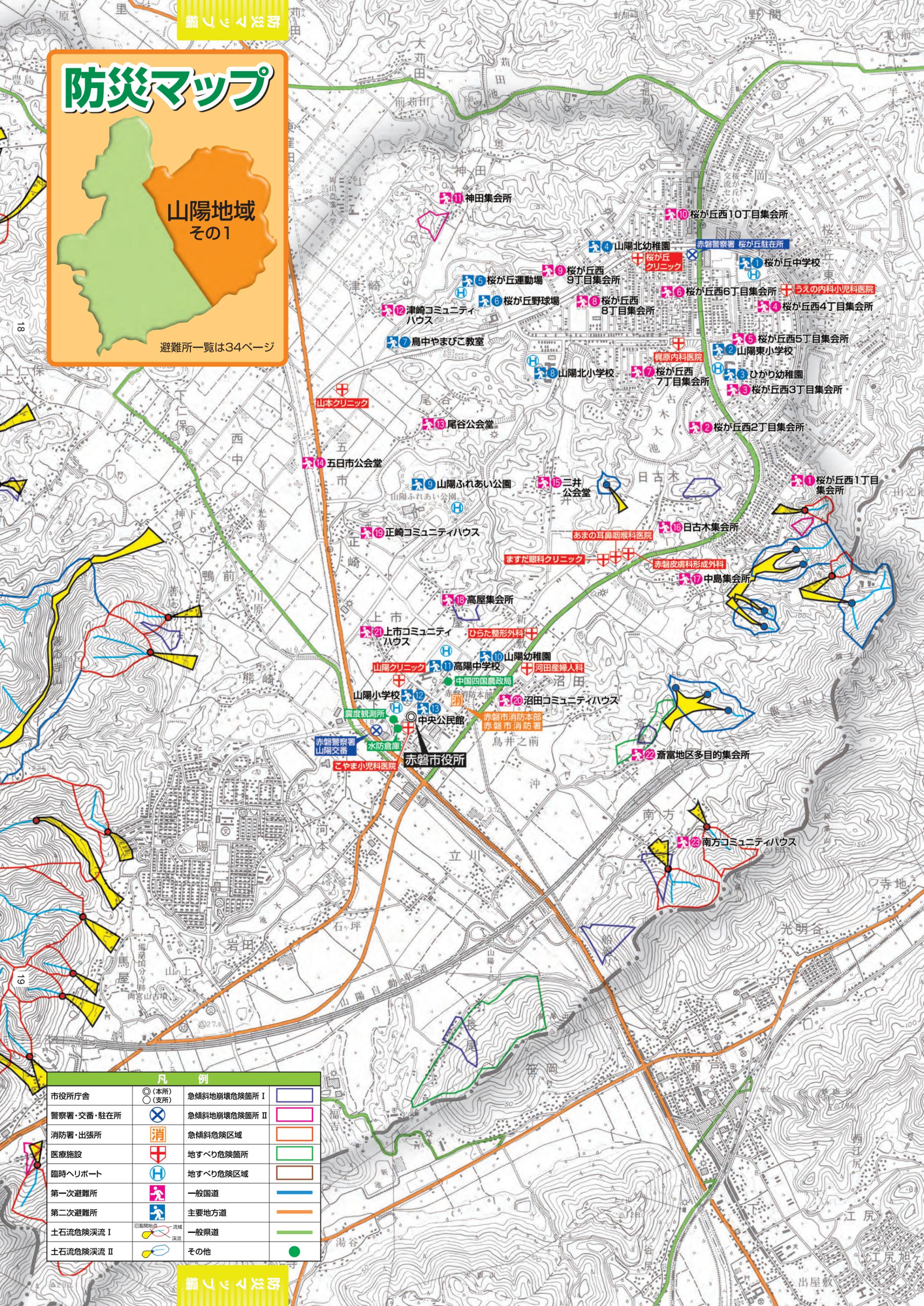
救命講習は、消防署で実施しています。みんな積極的に受講し、応急手当の方法を正しく覚えましょう。



防災マップ

山陽地域 その1

避難所一覧は34ページ



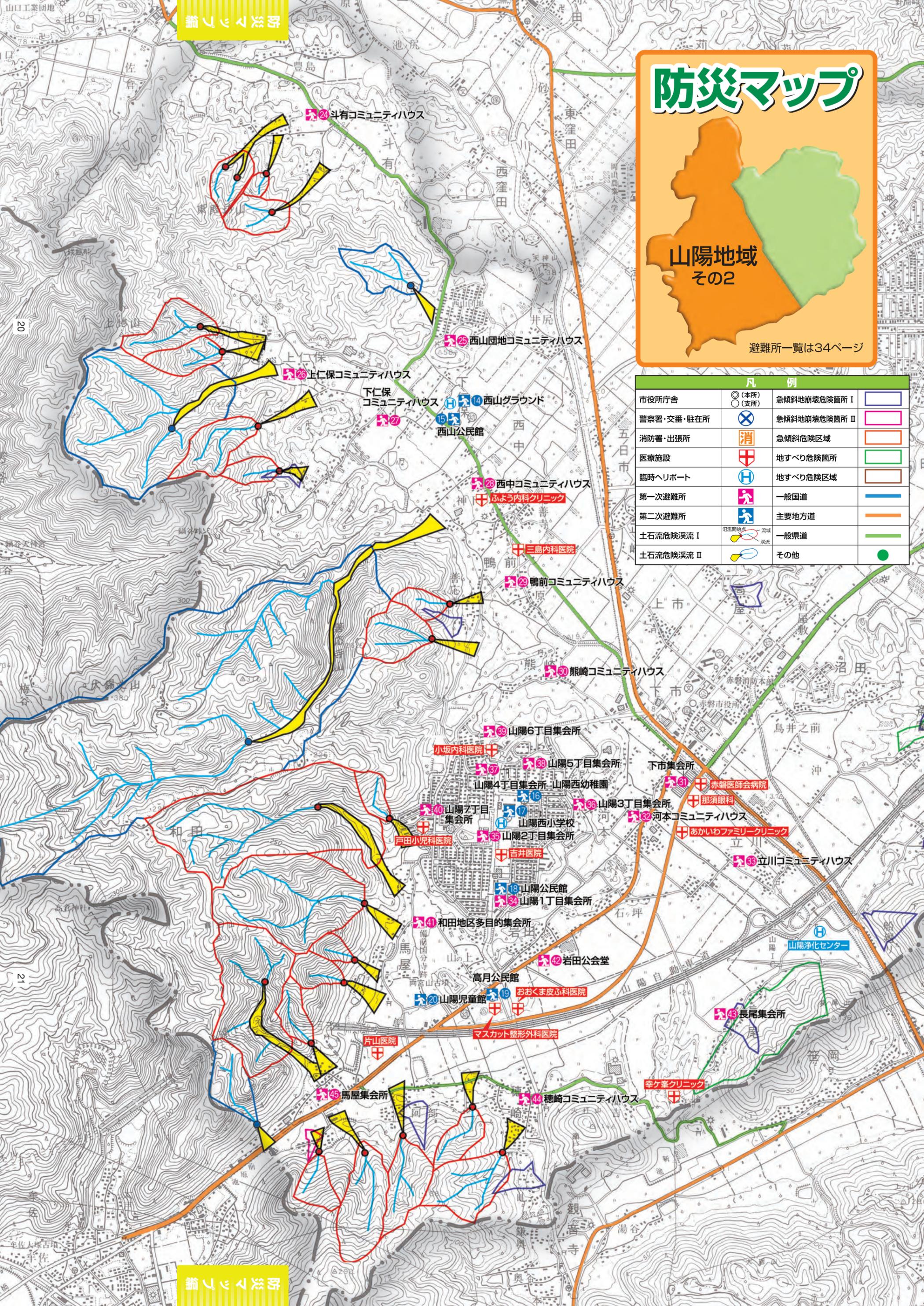
凡例

市役所庁舎	◎(本所) ○(支所)	急傾斜地崩壊危険箇所 I	
警察署・交番・駐在所		急傾斜地崩壊危険箇所 II	
消防署・出張所		急傾斜危険区域	
医療施設		地すべり危険箇所	
臨時ヘリポート		地すべり危険区域	
第一次避難所		一般国道	
第二次避難所		主要地方道	
土石流危険渓流 I		一般県道	
土石流危険渓流 II		その他	

防災マップ



凡 例	
市役所庁舎	◎ (本所) ○ (支所)
警察署・交番・駐在所	⊗
消防署・出張所	消
医療施設	+
臨時ヘリポート	H
第一次避難所	人
第二次避難所	人
土石流危険渓流 I	流域 渓流
土石流危険渓流 II	流域 渓流
急傾斜地崩壊危険箇所 I	■
急傾斜地崩壊危険箇所 II	■
急傾斜地危険区域	■
地すべり危険箇所	■
地すべり危険区域	■
一般国道	—
主要地方道	—
一般県道	—
その他	●

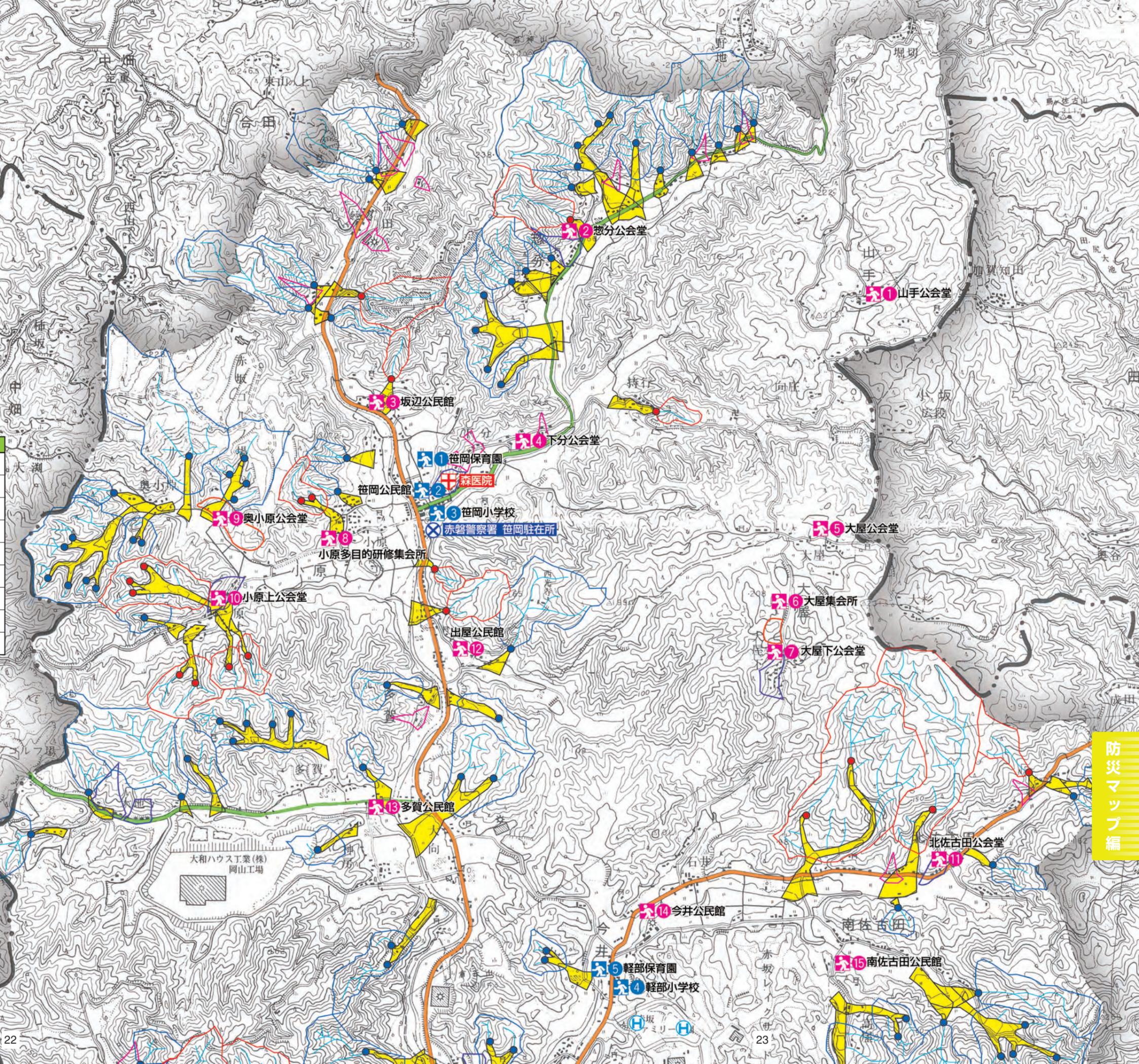


防災マップ

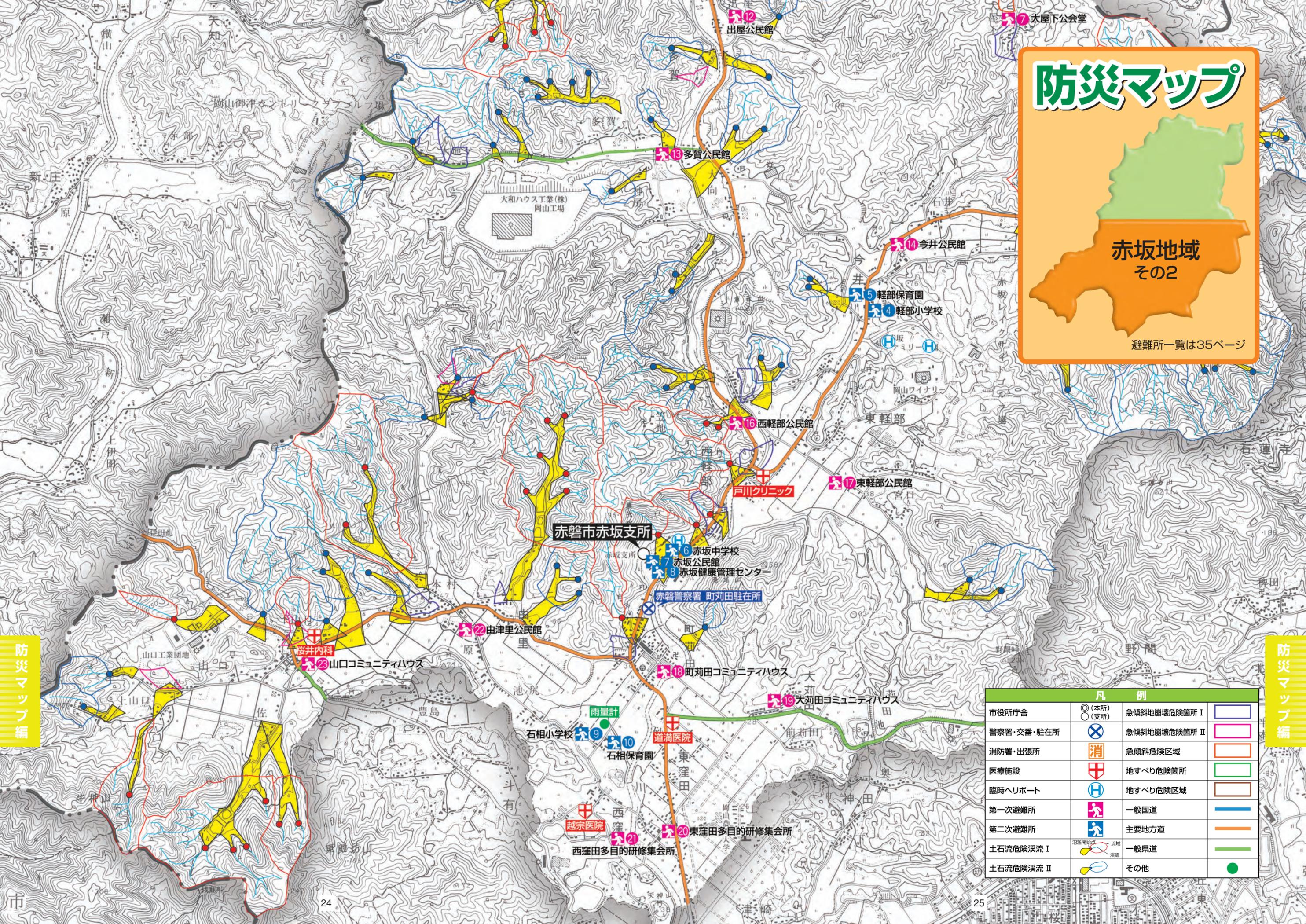
赤坂地域 その1

避難所一覧は35ページ

凡 例		
市役所庁舎	◎ (本所) ○ (支所)	急傾斜地崩壊危険箇所 I
警察署・交番・駐在所	⊗	急傾斜地崩壊危険箇所 II
消防署・出張所	消	急傾斜危険区域
医療施設	+	地すべり危険箇所
臨時ヘリポート	H	地すべり危険区域
第一次避難所	🚶	一般国道
第二次避難所	🚶	主要地方道
土石流危険渓流 I	🌊	一般県道
土石流危険渓流 II	🌊	その他



防災マップ



防災
マップ
編

防災
マップ
編

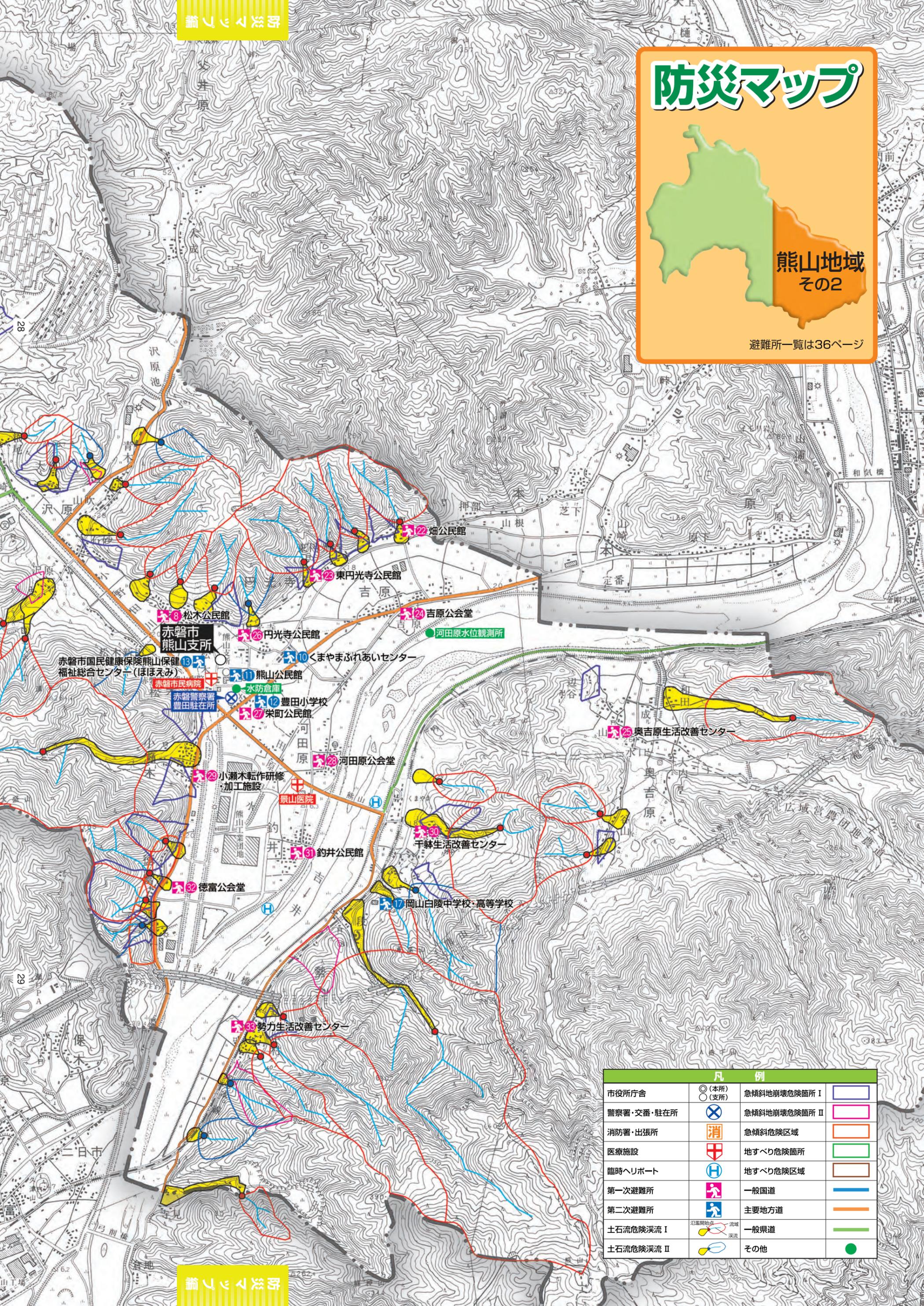
凡 例			
市役所庁舎	◎ (本所) ○ (支所)	急傾斜地崩壊危険箇所 I	
警察署・交番・駐在所		急傾斜地崩壊危険箇所 II	
消防署・出張所		急傾斜危険区域	
医療施設		地すべり危険箇所	
臨時ヘリポート		地すべり危険区域	
第一次避難所		一般国道	
第二次避難所		主要地方道	
土石流危険渓流 I		一般県道	
土石流危険渓流 II		その他	

防災マップ



熊山地域
その2

避難所一覧は36ページ



赤磐市熊山支所
赤磐市国民健康保険熊山保健福祉総合センター(ほほえみ)
赤磐市民病院
赤磐警察署 豊田駐在所
赤磐市市民病院
水防倉庫
豊田小学校
栄町公民館
小瀬木転作研修加工施設
熊山工業団地
徳富公会堂
岡山白陵中学校・高等学校
千躰生活改善センター
釣井公民館
河田原公会堂
河田原水位観測所
吉原公会堂
松木公民館
日光寺公民館
東円光寺公民館
畑公民館
奥吉原生活改善センター
勢利生活改善センター

凡 例			
市役所庁舎	◎(本所) ○(支所)	急傾斜地崩壊危険箇所Ⅰ	
警察署・交番・駐在所		急傾斜地崩壊危険箇所Ⅱ	
消防署・出張所		急傾斜地危険区域	
医療施設		地すべり危険箇所	
臨時ヘリポート		地すべり危険区域	
第一次避難所		一般国道	
第二次避難所		主要地方道	
土石流危険渓流Ⅰ		一般県道	
土石流危険渓流Ⅱ		その他	

防災マップ

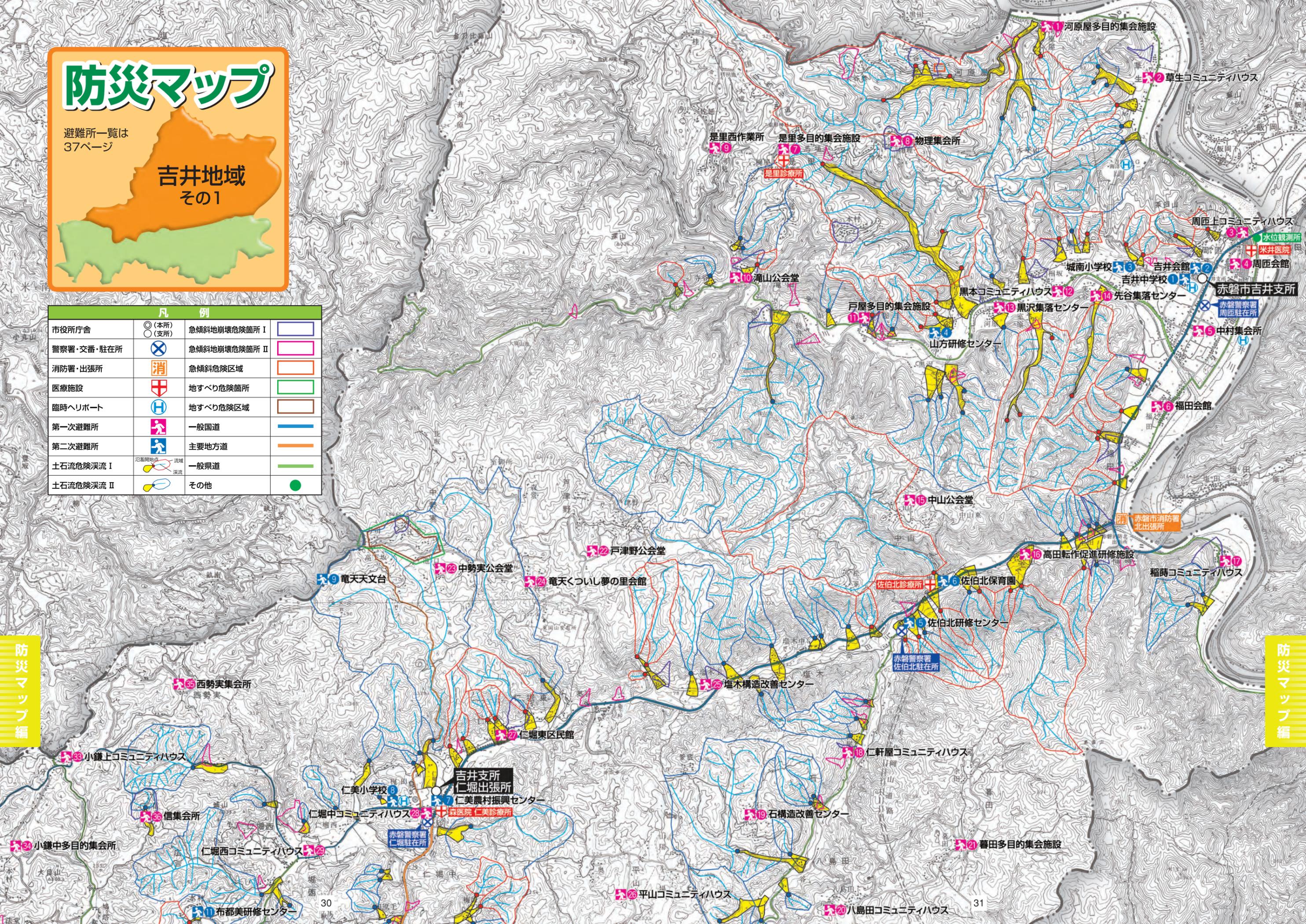
避難所一覧は
37ページ

吉井地域 その1

凡 例	
市役所庁舎	◎ (本所) ○ (支所)
警察署・交番・駐在所	⊗
消防署・出張所	消
医療施設	+
臨時ヘリポート	H
第一次避難所	🚶
第二次避難所	🚶
土石流危険渓流 I	流域 渓流
土石流危険渓流 II	その他

防災
マ
ッ
プ
編

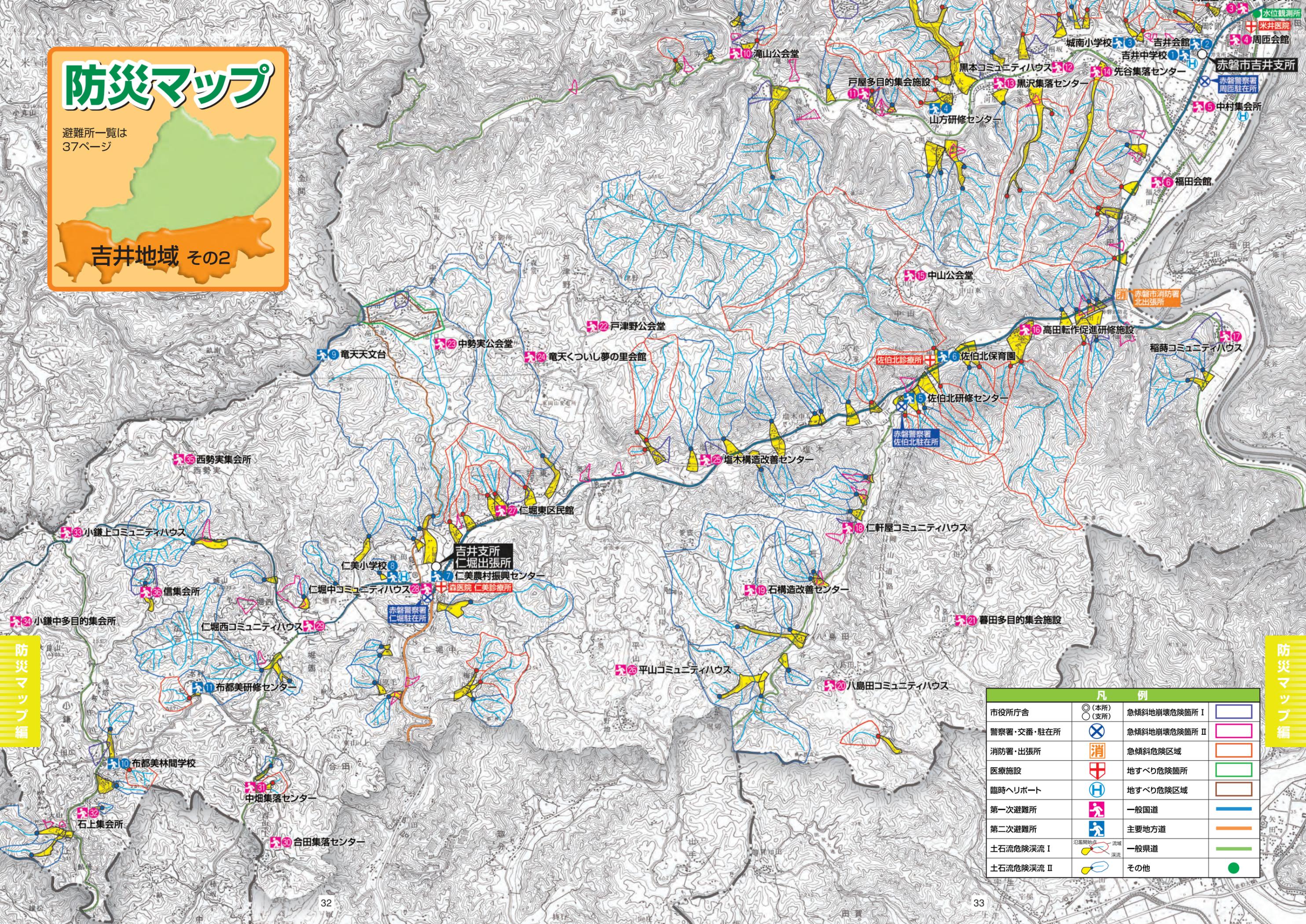
防災
マ
ッ
プ
編



防災マップ

避難所一覧は
37ページ

吉井地域 その2



防災
マ
ッ
プ
編

防
災
マ
ッ
プ
編

凡 例	
市役所庁舎	○(本所) ○(支所)
警察署・交番・駐在所	⊗
消防署・出張所	消
医療施設	+
臨時ヘリポート	H
第一次避難所	↑
第二次避難所	↑
土石流危険渓流 I	流域 深流
土石流危険渓流 II	その他
急傾斜地崩壊危険箇所 I	□
急傾斜地崩壊危険箇所 II	□
急傾斜危険区域	□
地すべり危険箇所	□
地すべり危険区域	□
一般国道	—
主要地方道	—
一般県道	—
その他	●

赤坂地域の避難所一覧

※原則として、各集落とも安否確認のため第一次避難所に集合し、避難所として適当であれば、その場所を避難所とします。避難所として不適当であると判断した場合は本部の指示により第二次避難所へ移動していただきます。

※場合によっては、区長又は自主防災組織の長の判断で第二次避難所への避難もあります。

(平成25年3月1日現在)

第 一 次 避 難 所		第 二 次 避 難 所	
①	山手公会堂	①	笹岡保育園
②	惣分公会堂	②	笹岡公民館
③	坂辺公民館	③	笹岡小学校
④	下分公会堂	④	軽部小学校
⑤	大屋公会堂	⑤	軽部保育園
⑥	大屋集会所	⑥	赤坂中学校
⑦	大屋下公会堂	⑦	赤坂公民館
⑧	小原多目的研修集会所	⑧	赤坂健康管理センター
⑨	奥小原公会堂	⑨	石相小学校
⑩	小原上公会堂	⑩	石相保育園
⑪	北佐古田公会堂		
⑫	出屋公民館		
⑬	多賀公民館		
⑭	今井公民館		
⑮	南佐古田公民館		
⑯	西軽部公民館		
⑰	東軽部公民館		
⑱	町苅田コミュニティハウス		
⑲	大苅田コミュニティハウス		
⑳	東窪田多目的研修集会所		
㉑	西窪田多目的研修集会所		
㉒	由津里公民館		
㉓	山口コミュニティハウス		

熊山地域の避難所一覧

※原則として、各集落とも安否確認のため第一次避難所に集合し、避難所として適当であれば、その場所を避難所とします。避難所として不適当であると判断した場合は本部の指示により第二次避難所へ移動していただきます。

※場合によっては、区長又は自主防災組織の長の判断で第二次避難所への避難もあります。

(平成25年3月1日現在)

第 一 次 避 難 所		第 二 次 避 難 所	
①	酌田公民館	①	熊山英国庭園
②	岡転作研修・加工施設	②	いわなし幼稚園
③	グリーンタウン殿谷集会所	③	熊山格技場
④	殿谷集会所	④	磐梨中学校
⑤	佐古公会堂	⑤	磐梨小学校
⑥	石蓮寺多目的共同利用施設	⑥	熊山老人憩いの家
⑦	沢原公会堂	⑦	桜が丘小学校
⑧	松木公民館	⑧	桜が丘幼稚園
⑨	可真下1支部公民館	⑨	桜が丘いきいき交流センター
⑩	可真下南公民館	⑩	くまやまふれあいセンター
⑪	可真下公会堂	⑪	熊山公民館
⑫	稗田公会堂	⑫	豊田小学校
⑬	可真上集会所	⑬	赤磐市国民健康保険熊山保健福祉総合センター(ほほえみ)
⑭	野間公民館	⑭	熊山運動公園野球場
⑮	桜が丘東1丁目集会所	⑮	熊山運動公園多目的広場
⑯	桜が丘東2丁目集会所	⑯	熊山運動公園テニスコート
⑰	桜が丘東3丁目集会所	⑰	岡山白陵中学校・高等学校
⑱	桜が丘東4丁目集会所		
⑲	桜が丘東5丁目集会所		
⑳	桜が丘東6丁目集会所		
㉑	弥上公民館		
㉒	畑公民館		
㉓	東円光寺公民館		
㉔	吉原公会堂		
㉕	奥吉原生活改善センター		
㉖	円光寺公民館		
㉗	栄町公民館		
㉘	河田原公会堂		
㉙	小瀬木転作研修・加工施設		
㉚	千躰生活改善センター		
㉛	釣井公民館		
㉜	徳富公会堂		
㉝	勢力生活改善センター		

吉井地域の避難所一覧

※原則として、各集落とも安否確認のため第一次避難所に集合し、避難所として適当であれば、その場所を避難所とします。避難所として不適当であると判断した場合は本部の指示により第二次避難所へ移動していただきます。

※場合によっては、区長又は自主防災組織の長の判断で第二次避難所への避難もあります。

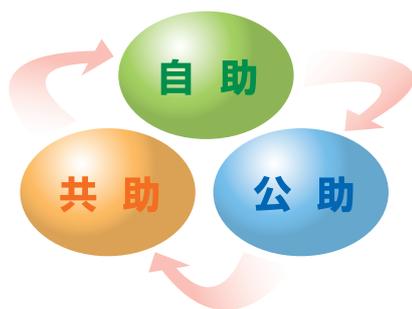
(平成25年3月1日現在)

第 一 次 避 難 所		第 二 次 避 難 所	
①	河原屋多目的集会施設	①	吉井中学校
②	草生コミュニティハウス	②	吉井会館（一次兼ねる）
③	周匝上コミュニティハウス	③	城南小学校
④	周匝会館	④	山方研修センター
⑤	中村集会所	⑤	佐伯北研修センター（一次兼ねる）
⑥	福田会館	⑥	佐伯北保育園
⑦	是里多目的集会施設	⑦	仁美農村振興センター
⑧	物理集会所	⑧	仁美小学校
⑨	是里西作業所	⑨	竜天天文台
⑩	滝山公会堂	⑩	布都美林間学校（一次兼ねる）
⑪	戸屋多目的集会施設	⑪	布都美研修センター（一次兼ねる）
⑫	黒本コミュニティハウス		
⑬	黒沢集落センター		
⑭	先谷集落センター		
⑮	中山公会堂		
⑯	高田転作促進研修施設		
⑰	稲蒔コミュニティハウス		
⑱	仁軒屋コミュニティハウス		
⑲	石構造改善センター		
⑳	八島田コミュニティハウス		
㉑	暮田多目的集会施設		
㉒	戸津野公会堂		
㉓	中勢実公会堂		
㉔	竜天くついし夢の里会館		
㉕	塩木構造改善センター		
㉖	平山コミュニティハウス		
㉗	仁堀東区民館		
㉘	仁堀中コミュニティハウス		
㉙	仁堀西コミュニティハウス		
㉚	合田集落センター		
㉛	中畑集落センター		
㉜	石上集会所		
㉝	小鎌上コミュニティハウス		
㉞	小鎌中多目的集会所		
㉟	西勢実集会所		
㊱	信集会所		

1 自分たちの地域は自分たちで守る

● 自助・共助・公助

災害は必ず発生します。日ごろから正しい防災知識を身に付け、地震や風水害などの様々な災害に対する備えをしておくことが必要です。また、災害による被害を減らすためには、「自助・共助・公助」の連携が大切です。



- **自助**とは、住民一人ひとりが自分自身を災害から守ることで。
- **共助**とは、地域社会で助けあい、お互いを災害から守ることで。
- **公助**とは、国・県・市など行政が住民を災害から守ることで。

まずは住民の皆さんが「自分たちの地域は自分たちで守る」という防災の基本に立ち返り、自主防災組織の活動や地域の防災行事に積極的に参加して、助け合いの心あふれる安心で安全な地域社会をつくっていきましょう。

● 地域の防災活動に参加しよう

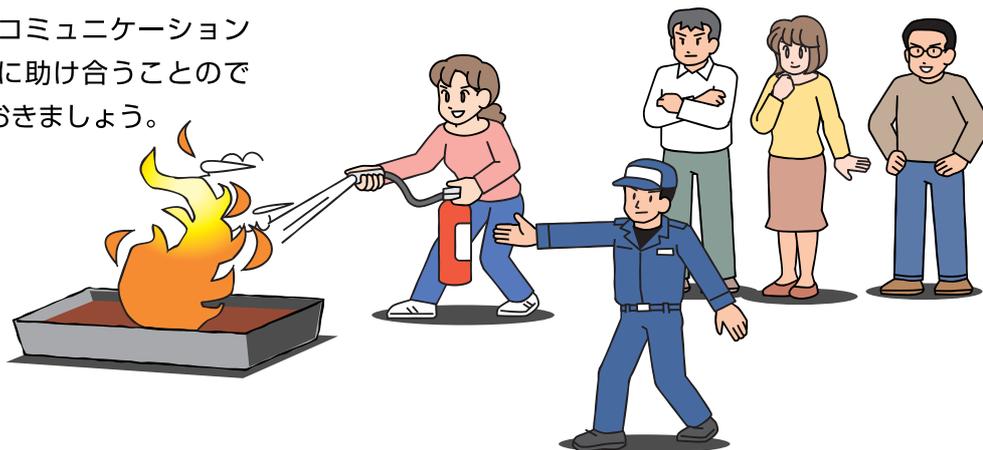
災害時の防災活動は、自治体や消防機関などで全力を挙げて行います。しかし、道路の寸断や通信手段の混乱などで、防災活動が十分に行えないことも考えられます。そんなとき、何といっても頼りになるのは、ご近所の方々です。しかし、それぞれがバラバラに行動したのでは、せっかくの活動も十分な力を発揮することはできません。

災害に備えるためには、「自分たちの住む地域は、自分たちで守る」という自主防災の気持ちが大切です。ふだんから地域の防災上の課題についてみんなで話し合い、コミュニケーションをとる中で、ともに助け合うことのできる環境を整えておきましょう。

自主防災組織に参加

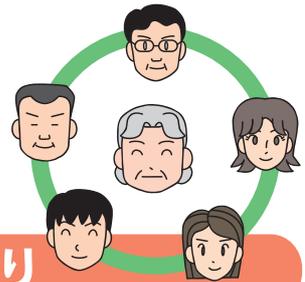


防災訓練に参加



2 災害時要援護者にやさしいまちづくり

年齢や障害、言葉の壁などによって、災害発生時の対応に何らかの手助けが必要な人を災害時要援護者といいます。阪神・淡路大震災の犠牲者でもっとも多かったのは高齢者でした。災害時要援護者を守るために、地域が一丸となって取り組んでいきましょう。

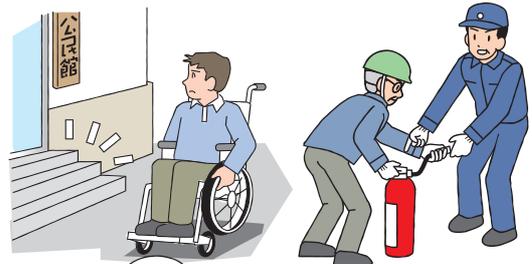


● 災害時要援護者が安心して暮らせる地域づくり

要援護者の身になって防災対策を

要援護者の人たちに対して、情報伝達の際にはどうしたら情報が正確に伝わるのか、避難誘導等を行う際にはどんな支障があるのかなど、要援護者の立場に立って考え、防災環境や防災体制を改善していきましょう。

そのためには、要援護者の方にも積極的に防災訓練に参加していただくことが大切です。



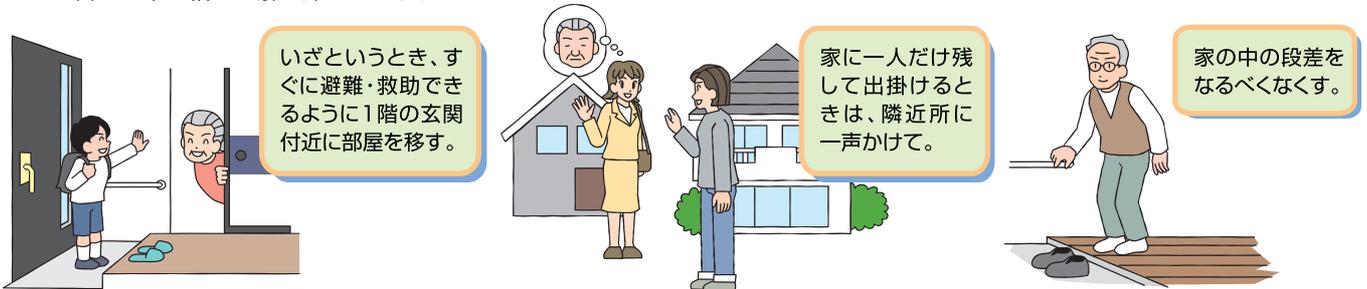
日ごろから地域でのコミュニケーションを

日常の支援活動こそが、要援護者対策そのものといってもいいでしょう。日ごろからコミュニケーションをもち、プライバシーや個人情報に配慮しつつ、地域ぐるみでの支援体制を整えましょう。



家庭の中での習慣づけを

家庭内のちょっとしたことで、要援護者対策はできるものです。また、隣近所の協力は不可欠ですから、普段のつき合いの中で相互理解を深めましょう。



● 要援護者を避難誘導する際のポイント

災害発生という非常時には、身体・言語に不自由のある人ほど、状況の変化に対してより大きな不安を抱くものです。そんなときこそ、思いやりの心で接し、その人の立場に立った支援を心掛けましょう。



高齢者・傷病者

- ・複数の人で対応。
- ・緊急時には、おぶったり、担架を使ったりする。

目が不自由な人

- ・つえを持つ手と反対側のひじのあたりに軽く触れ、半歩前を歩き、ゆっくりと誘導。
- ・誘導先の障害物や道路状況等を説明しながら進む。

耳が不自由な人

- ・口を大きく動かし、はっきり、ゆっくり話す。
- ・筆談、身振りなどで伝える。

外国人

- ・まずは身振り手振りで意思の疎通を図る。
- ・外国語が分からないからといって、逃げてしまわないこと。孤立させないことが大切。

車いすの人

- ・階段では二人以上で支援を。上りは前向き、下りは後向きで。
- ・救援者が一人しかいないときは、おぶいひもを使って背負う。

自助・共助・公助編

3 非常時に役に立つもの

災害時に備えて準備しておくものは、家族構成を考えて必要数をそろえ、保管しておきましょう。また、非常持出品は、リュックサックなどの非常持出袋に入れて保管し、それ以外の備蓄品とは分けておきましょう。

最低限準備しておくべきもの(非常持出品)

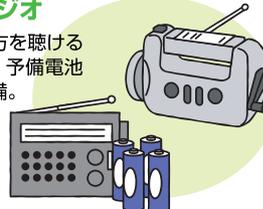
●懐中電灯

できれば一人に一つ用意を。予備電池・電球もあわせて準備。



●携帯ラジオ

AM・FM両方を聴けるものを用意。予備電池も多めに準備。



●救急医薬品

消毒薬、包帯、絆創膏、風邪薬、解熱剤、胃腸薬など。常備薬があれば、必ず準備。



●非常食及び飲料水

調理の不要な缶詰、乾パンなど、三日分を用意。水はペットボトルで準備を。



●現金・貴重品

現金には、公衆電話の活用を考慮して、十円硬貨も入れておくこと。貴重品は、預金通帳、健康保険証、免許証のコピーや印鑑など。



●ヘルメット・軍手・タオル・着替え(上着・下着)

一人ひとりに準備。着替えの衣類は、長そで・長ズボンを用意。



●その他

ライター・マッチ、ろうそく、ナイフ、缶切り、ビニール袋、ティッシュ、ウェットティッシュ、ビニールシート、生理用品など。乳幼児やお年寄りがある家族は、ほ乳瓶、粉ミルク、紙おむつなども忘れずに。



被災後の生活のために準備しておきたいもの(災害用備蓄品)

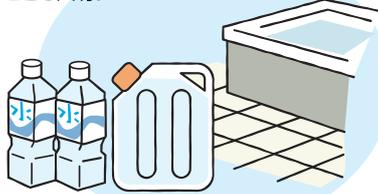
●食料

缶詰、レトルト食品、カップ麺、栄養補助食品など。非常食三日分を含め、七日分を目安に確保しておく。



●水

一人1日当たり3リットルを目安に、三日分の備蓄を。ペットボトル、ポリタンクへの汲み水のほか、風呂桶への貯水を習慣づけることも大切。



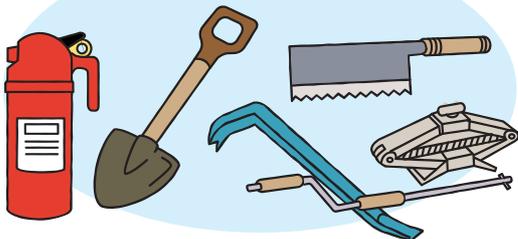
●カセットコンロなど

予備ボンベも忘れずに。野外バーベキュー用品(木炭・固形燃料)もあわせて備蓄も便利。



●消火・救助用品

消火器、のこぎり、スコップ、バール、車のジャッキなど。



●その他(東日本大震災で役に立ったもの)

- ・ホイッスル
- ・予備の眼鏡・補聴器
- ・ビニールシート
- ・ビニールラップ
- ・ゴミ袋
- ・新聞紙
- ・携帯トイレ
- ・使い捨てカイロ
- ・厚底スリッパ
- ・液体ハミガキ
- ・ドライシャンプー
- ・裁縫セット
- ・ガムテープ
- ・地図
- ・さらし
- ・筆記用具(マジックなど)など

※大規模災害の発生直後は、ライフラインの損壊等により、救援物資がすぐには届かないことも考えられます。発災から最低三日分の非常食及び飲料水を準備しておく必要があります。

わが家の防災メモ

わが家の住所	(〒 ー) 住所	TEL
--------	--------------	-----

家族の連絡先	氏名	生年月日	血液型	緊急連絡先	避難場所
		・	・	RH型+- ☎ 携帯	
		・	・	RH型+- ☎ 携帯	
		・	・	RH型+- ☎ 携帯	
		・	・	RH型+- ☎ 携帯	
		・	・	RH型+- ☎ 携帯	
		・	・	RH型+- ☎ 携帯	

家族で決めておく、いざというときの集合場所

■親戚・知人の連絡先

氏名	電話番号	住所	メモ 家族との関係など
	☎ 携帯		

■緊急連絡先

火災・救急・救助は **119** 事件・事故は **110** 災害用伝言ダイヤル **171**

災害用伝言ダイヤルの使い方

NTTでは、震度6弱以上の地震発生時など、被災地への安否確認電話が集中する場合に「災害用伝言ダイヤル」サービスを開始します。

災害用伝言ダイヤルの開設、登録できる電話番号等運用条件などは、災害後、NTTが決定しテレビやラジオ放送でお知らせしますので、「171」をダイヤルし、利用ガイダンスに従って伝言の録音・再生を行ってください。



連絡先	電話番号	連絡先	電話番号
赤磐市役所	086-955-1111	赤磐警察署	086-952-0110
赤坂支所	086-957-2222	中国電力	0120-415-322 0120-415-256
熊山支所	086-995-1211	N T T 西日本	113 携帯 0120-444-113
吉井支所	086-954-1111	岡山ガス	086-955-0229
赤磐市消防本部	086-955-2244		

■医療機関

医療機関名	電話番号	住所	メモ